

和歌山だよい

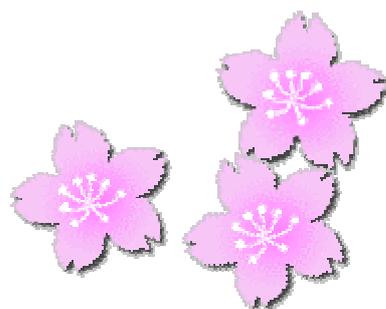
4月号 No.1



紀の川市 桃源郷

CONTENTS

1. 創刊のご挨拶…………… P1
2. 和歌山県政トピックス… P2
3. ふるさと歳時記…………… P7
4. お知らせ…………… P9
5. 知事メッセージ…………… P11
6. アンケート



拝 啓

陽春の候 皆様方にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

和歌山県知事に就任させていただいて一年あまり、自らの来し方を思う時、ふるさとは如何にあるかは常に私の心のどこかにあったものでした。

「ふるさとは遠きにありて思ふもの そして悲しくうたふもの」とは室生犀星の詩ですが、その思いは和歌山県ご出身の皆様も同じでいらっしゃるかと存じます。一方、和歌山県のこれまでを振り返ってみますと、そのような皆様の思いに我々県に残った者が十分応えてきたかという点で、まだまだ反省しなければならないところもあると感じています。

そこで、ふるさと和歌山と県外に在住されます県人の方々を結ぶきっかけとなればと、4月から『和歌山だより』を各県人会会員の皆様方や和歌山県と関係のある方々にお届けすることとし、第1号を送付させていただきました。これは、時々和歌山県が取り組んでいる施策の内容や、ふるさと情報などを載せた便りで、毎月、郵送にてお届けしたいと思っております。まだまだ改良の余地を残すものではありませんが、皆様方のご意見やご指導をいただきながら育てていただければ幸いと存じます。

また、和歌山県外でご活躍中の和歌山ゆかりの皆様が、最近の県政の動向や和歌山の新しい魅力をご理解され、それをまたお知り合いの方々にもそれぞれの方法でお伝え下されば、和歌山県の良さがもっと多くの人々に知ってもらえるようになるかと信じています。

それがきっと和歌山県を元気にする一助にもなると思います。

どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

敬 具

平成20年4月

和歌山県知事

仁 坂 吉 伸



最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

*「今月の和歌山県政トピックス」は、知事定例記者会見における発表項目の知事説明を要約して掲載しています。

●イチゴの新品種「まりひめ」誕生

- ・ 県農業試験場が平成15年から5年の歳月をかけて、「まりひめ」を開発。
- ・ 「さちのか」に比べ、収穫が早く(12月初旬から収穫できる)、実の大きさが平均で1.2倍。果汁が多く食味がいい。甘さは「さちのか」と同じくらい良い。
- ・ 紀州の手毬のイメージと、赤くてかわいらしいことから「まりひめ」と名付けた。
- ・ 売り出されるのは、平成21年12月。モデル産地を10haぐらい作ってもらい5年間で30haぐらいに広げたい。

*「まりひめ」は、[♀章姫(あきひめ)×みさちのか]の組み合わせの中から生まれた品種。



●平成19年の和歌山県の観光客数は過去最高！



高野山を訪れた外国人観光客

- ・ 平成19年和歌山県観光客動態調査結果の速報が出ました。その結果、宿泊客、日帰り客とも 約5%増加し、総数で史上最高に。

宿泊客は平成4年くらいが最高で長期低迷傾向にあったが、ここ1,2年は巻き返し、特に19年は5.1%の増加。

(単位：千人)

	成19年	前年比
宿泊	5,567	105.1%
日帰	25,516	104.6%
総数	32,082	104.7%

- ・ 外国人観光客は、30%増というものすごい増加。まだまだ満足せず、もっとがんばろうと。欧米にも和歌山の観光地がブレイクの兆しがあり、兆しは活かさないといけない。アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアの観光客は、それぞれ好みが違うので、それぞれ好みの地域に誘導していきたい。

○国・地域別宿泊者数の推移

(単位：人)

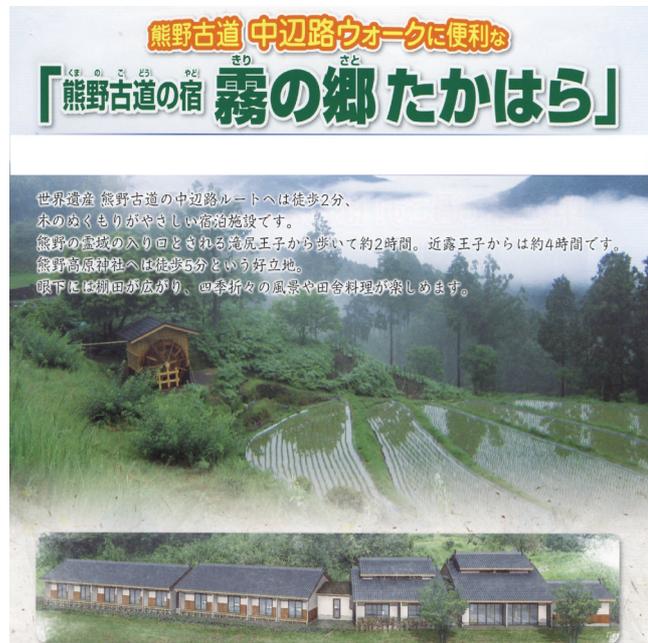
	アジア計	左のうち				欧米豪他計	左のうち			合計
		台湾	香港	韓国	中国		フランス	アメリカ	ドイツ	
H19年	122,033	47,390	45,176	19,144	6,752	41,837	9,177	8,210	3,182	163,870
前年比	118.2%	102.2%	114.8%	188.2%	232.7%	182.4%	243.0%	146.7%	104.2%	129.8%

●「熊野古道の宿 霧の郷たかはら」オープン

- ・ 熊野古道中辺路の途中に、かつての宿場で古道沿いの最古の神社「高原熊野神社」を祀る高原の郷がある。

熊野の山々を見晴らせるところに宿泊施設を造って、「霧の郷たかはら」を味わっていただこうと。

昔、こういう雰囲気のある宿泊施設が熊野古道沿いにいくつかあったんだよと、そういう昔風の建物にしました。温泉や地元料理があります。4月21日にオープンするので皆さん是非お越し下さい。



【概要】

- ・ 木造平屋建 555.26㎡
- ・ 8室（トイレ付き） 定員28名
- ・ 1泊2食付 1人8,900円(平日2名1室)

【問】 田辺市中辺路町高原826
0739-64-1900

●県産食品を国内外にアピール！「FOODEX JAPAN 2008 和歌山ブース」



- ・ FOODEXは第33回を迎える国際食品・飲料展で、世界で1番目か2番目、アジアで一番大きい催し。和歌山ブースは、30小間で25企業の出展者が集まった。30小間というのは最大のブースで、大きな会場のど真ん中に和歌山館がそびえている感じ。
- ・ ほとんどの出展企業は、次回も出展すると回答。
- ・ 主催している（社）日本能率協会も和歌山県に対して「出展規模も自治体の中では

最大級で、来場者へのインパクトは非常に大きかった」と大変評価。

- ・ 出展者には、様々な前向きな刺激が今回あったと思っている。和歌山県はこれに参加し続けようと思っている。「よし、一発これで勝負」というような方は、来年は是非参加していただきたい。来年の目標は、2倍。

●県立近代美術館・博物館 ～名誉館長に平山郁夫さんが就任～

- ・ 平山郁夫さんが、県立近代美術館・博物館の名誉館長に就任いただけることに。奥様のお父様が松山常次郎さん。九度山出身の非常に高名な代議士で、日米開戦阻止に

も尽力された立派な方。九度山には平山さんがお金を出して、松山常次郎さんの生家を昔風にきれいに改造された松山常次郎記念館がある。

- ・ 現在東京国立博物館特任館長をされているが、県立の博物館の名誉館長などを引き受けられるのは、現時点では和歌山だけ。4月1日就任。

●和歌山工業技術センター新所長に請川さんが就任

- ・ 地元企業から信頼の厚い県工業技術センターのさらなる飛躍を目指し所長を公募。4人の応募があり、請川孝治さんが選ばれた。
- ・ 研究業績だけではなく、人柄も申し分なく、いろいろな技術開発要素を和歌山に引っ張ってきてもらいたい。
- ・ 中小企業のお役に立つということが和歌山の工業技術センターの売り。例えばフェルラ酸の製造を谷口さん（工業技術センター職員）が築野食品と一緒に開発し、この業績によって「井上春成賞」という研究者の最高の栄誉をもらった。詳しくは県HP「ようこそ知事室へ」の「名人対談」を。
- ・ 工業技術センターのパンフレットには、一番はじめに技術支援が出てくる。その次に研究開発、人材育成。県内企業が難しい実験をする時は、工業技術センターを頼りにしている。地方のセンターにとって一番大事なことは何かというと、技術開発によって地元の企業の力を高めるということ。

氏名：請川孝治（うけがわ こうじ） ～専門は石油精製～

S22 愛媛県生まれ、神戸育ち

S49 東京大学大学院 工学系研究科 反応工学専攻 博士課程修了

S49 工業技術院（現（独）産業技術総合研究所）公害資源研究所入所

その後エネルギー資源部長、エネルギー利用研究部門長等を経て、H15.4から理事兼関西センター長。

*特許、研究論文多数。国のエネルギー技術開発の中核で活躍。（独）産業技術総合研究所関西センター所長として、産学官による研究開発等において関西の公設試験研究機関を束ねる役割を果たす。

- ・（社）日本エネルギー学会副会長
- ・エネルギー・資源学会理事
- ・（社）日本工学アカデミー会員 等

●和歌山市在住の日本画家清水達三氏が

日本芸術院賞・恩賜賞を受賞

- ・ 日本芸術院賞は、毎年10人程度が受賞し、恩賜賞はそのうち2人か3人。芸術院賞の中の、更に恩賜賞が、清水達三さんに贈られた。
- ・ 清水さんはずっと和歌山に住んでおられ、和歌山でも有名な方。作品は、「翠響」、翠の響きという、まさに和歌山の風景。本当に綺麗。研鑽を積まれた、郷土の英雄のよう。授賞式は、6月2日、日本芸術院会館にて。

氏名：清水達三（しみず たつぞう）
 年齢：72歳
 主な略歴及び賞歴
 S38
 S40 再興第48回院展初入選（「残雪」に対して）
 H5 和歌山県展審査員
 H10 日本美術院同人（和歌山県で3人目）
 H13 再興第83回院展文部大臣賞（「奥瀬」に対して）
 再興第86回院展内閣総理大臣賞（「枯木灘」に対して）
 参考：上記「枯木灘」は、平成17年5月～11月まで首相官邸にて展示された後、平成18年に県立近代美術館に寄贈されている。

●平成20年度組織・人事の新体制について

- ・ 新体制の基本的な考え方は、県民ニーズを一層きっちり把握し、県民にもっと近づくこと。それにふさわしいような組織にした。もう一つは、局・課室の統合。定数については、20年度に約100人削減。
- ・ IT統括監、食品安全監等の次長クラスの特命担当を配置、特定課題への対応を強化。
- ・ 振興局については、本庁との人事交流や管内情報収集・連絡調整機能を強化。
- ・ 従来のような事務分掌の範囲にとらわれないで、任務を意識した行動を促すように組織規則を任務型に改正。課題対応型の組織とする。
- ・ 今回の人事異動で配慮したところは、本庁と出先機関の間の人事異動の拡大。2番目は職種を越えた人事配置。また、中央省庁や民間企業への派遣を強化。

●道路の都市計画決定について

①一般国道42号湯浅御坊道路の4車線化の都市計画決定に係る環境影響評価の手続き開始

- ・ 紀伊半島の一周高速道路については現在海南まで4車線。海南～有田間は、4車線化のための工事中で、あと3～4年で完成予定。
- ・ 湯浅御坊道路については、元々の高速道路構想から外れていたのを無理矢理造ったため、2車線のままの高速道路。

都市計画決定がなされていないと4車線の道路は造れないため、都市計画決定に必要な環境影響評価について、3/27に手続きを開始。



②一般国道42号有田海南道路の都市計画決定完了

- ・ 海南～有田間のバイパス。現在の42号は、通勤道路になっていて大変な渋滞がある。この42号のバイパス建設を計画しており、その事業化決定のための都市計画が完了。

●マグロ養殖業が勝浦湾でスタート

- ・ マグロ養殖が、勝浦湾でスタート。(株)マルハニチロホールディングスの傘下企業である大洋エーアンドエフ(株)の子会社が勝浦漁協の組合員となっていく。生産量は、約150トン。約5億円の売り上げを狙う。
- ・ 日本の養殖クロマグロの生産量は、全体で約3,500トン。鹿児島県が1位で約2,000トン、次に長崎県。3位グループが三重県、沖縄県で300トン。和歌山県は200トンで、この150トンが加わることにより350トンになる。完成のあかつきには、3位に浮上。

●前知事の談合・収賄被告事件の概要並びに

県職員の関与状況及び処分内容について

- ・ 今回の事件で和歌山県庁のあり方としての問題点を総括すると次の3点。
 - ①県庁の最高幹部が公共調達工事についての談合に関与してきたこと。
 - ②本来知事の政治活動であるべき親睦会活動の事務を県庁職員が行い、これによってもたらされる資金を私費として、その管理を県庁職員が行ってきたこと。
 - ③県内地方紙に対して県庁職員が協賛金を支払い、また知事に不都合な記事を書く地方紙に対して資金を提供する行為に職員が従事したこと。
- ・ この3つの問題点に対して事件発覚以降、県は次のよう措置をとり、再発を完全に防止する体制とした。
 - ①については、事件以来完全に排除しているのみならず、抜本的制度改革を行って本年6月から談合を防止しうる完璧な公共調達制度を発足させる。
 - ②については、そのような機能は現在の県庁から完全に排除している。知事公室の後継である知事室からは、知事の政治活動的行動への関与は完全に排除し、また、このような行為に関与する面もあったと思われるような審議監などの組織は廃止した。
 - ③についても、事件以来完全に廃止している。さらに、19年4月から職員が守るべきルールについて、「和歌山県職員倫理規則」を定めるとともに、退職者の就職活動については、退職後5年間は県庁に「再就職状況等報告書」の提出を求め、広く公表をする制度を導入した。

また、公益通報等を容易にし、不祥事の未然防止を図るために監察査察制度を導入して県庁内の自浄能力を抜本的に高めている。
- ・ 関与した職員について、既に退職しているため職責を問うことができない者を除き、次のとおり処分を行った。

＊懲戒処分2名 訓告1名 注意5名
- ・ 県庁の組織として反省をし、県庁職員一人ひとりがこういうことを二度と起こさないようにしようということを考えて、県民のために新しい県庁に生まれ変わるといようなきっかけにしていきたい。

今が旬。すさみ町「ケンケン鰹」～一度食べたらやみつきに！～

すさみ町では、カツオといえば刺身。たたきにして食べる人は少ない。地域ブランドにも認定された「すさみケンケン鰹」の本場だから当然かも知れない。

このすさみ沖でとれるカツオは高知沖でとれるカツオと変わりはない。

何がちがうの？「海の男のカツオにかける想い」とてもいうのか、活け締め・血抜きから水揚げまでの時間など、漁師の徹底した丁寧さ。それがケンケン鰹の評価につながっているという。

「味はどうか？」もちろん刺身が一番、さっぱりしながらもつちりとした舌触り。昨年のはじめて食した友人は、山陰の「間人ガニ刺身」に匹敵するとの評価。

すさみ町では3月から5月にかけて「ケンケンかつお味覚祭り」を開催している。もちろん東京や大阪の料亭、購入できるスーパーもある。

しかし、「百聞は一食にしかず」。

ぜひ本場・すさみ町でこの格別の味を食することを薦めたい。

ただし「すさみケンケン鰹」は鮮度が命、天候により漁に出れない日などは、お出できないということをお忘れなく・・・。



一目十万本の桃の花！まさに桃源郷。～紀の川市桃山町～

春といえば、梅と桜。しかし和歌山県にはもうひとつ「桃の花」があります。近畿有数の桃の産地である紀の川市桃山町。その紀の川沿いには、「桃源郷」といわれる一面の桃畑が広がり、今年もピンクの花絨毯を敷き詰め、ほのかな甘い香りで町中を包み込みました。

その桃源郷で栽培されているのが「あら川の桃」。和歌山県の温暖な気候、それに農家の人たちが磨きをかけて栽培する、まさに名品として全国に出荷されていきます。今年も、6月下旬頃から「あら川の桃」の出荷がスタートします。



(桃の効能)

桃の果肉は食物繊維を多く含んでおり、整腸作用があります。また、カロチンやビタミンCといった抗酸化物質も多く、血圧を下げコレステロールの沈着を防ぐなど高血圧や動脈硬化にも効果があるといわれています。

和食のルーツは和歌山県にあり！

醤油、金山寺味噌、鰹節、わさび、高野豆腐、味噌、そして梅干し、さらに山椒、白砂糖までも。

私たちの食卓に欠かせない食材、そして和食の原点が和歌山県にあり、ここから全国に広まっていったことはあまり知られていない。

そして、その伝統の味が今もしつかりと引き継がれていることも・・・。

- ・ 金山寺味噌（中国・宋から由良町興国寺に伝わり、その伝統の技術は今も湯浅町から御坊市にかけて引き継がれています。）
- ・ 醤油（江戸時代には紀州藩の保護を受けて栄え、湯浅の港から大阪に向けて出荷されました。また今の広川町の濱口儀兵衛が銚子市にその技術を伝え、現在のヤマサ醤油をおこしています。）
- ・ 鰹節（江戸時代、印南町の漁師漁法とともに技法を土佐伝え、そして伊豆や焼津をはじめ全国に広がっていった。）
- ・ わさび（わさびの表示に「真妻」とかかれていることが多いが、その発祥地は印南町真妻地区である。）
- ・ 高野豆腐（標高800㍍にある高野山の僧が豆腐を雪中に落とし凍った豆腐を煮て食べると、新しい味に・・・）
- ・ 白砂糖（徳川吉宗が有田の田中善吉を薩

摩に派遣し甘藷の技術を学ばせ、帰郷後に精糖という偉業を成し遂げた。）



INFORMATION

○ 九度山町の真田祭

真田昌幸・幸村父子を偲んで開催される祭りで、

5月4日・5日の2日間開催されます。

最大の見所の武者行列は、5月5日。少年少女が町内をねり歩き、特に真田十勇士は人気を呼んでいます。

問： 真田祭実行委員会

TEL 0736-54-2019

○ 5月上旬までが見ごろ

花のトンネル「藤棚ロード」

「リフレッシュエリアみやまの里」にある1646㍍の長さを誇る藤棚ロード。こぼれんばかりの藤が見事に咲き誇る壮観な花道です。

場所： 日高郡日高川町

問： 日高川町美山支所 TEL0738-56-0324

和歌山県長期総合計画策定！

このたび和歌山県では今後10年（～2017年）を計画期間とし長期総合計画を策定しました。

（県長期総合計画 第3節 和歌山県がめざす将来像 抜粋）

我が国は、世界に例を見ないスピードで少子高齢化が進む中、グローバル化の進展や地球規模での環境問題等への対応が求められるなど、大きな変革期を迎えています。また、本県は、“神々の棲む国”ともいわれた熊野・高野山をはじめ、連綿と守り続けてきた自然や文化など数多くの優れた特色を持っています。このような大きな変革期を迎える中で、本県が持つ優れた特色（強み）を積極的に活かして県勢を発展させていく姿を、

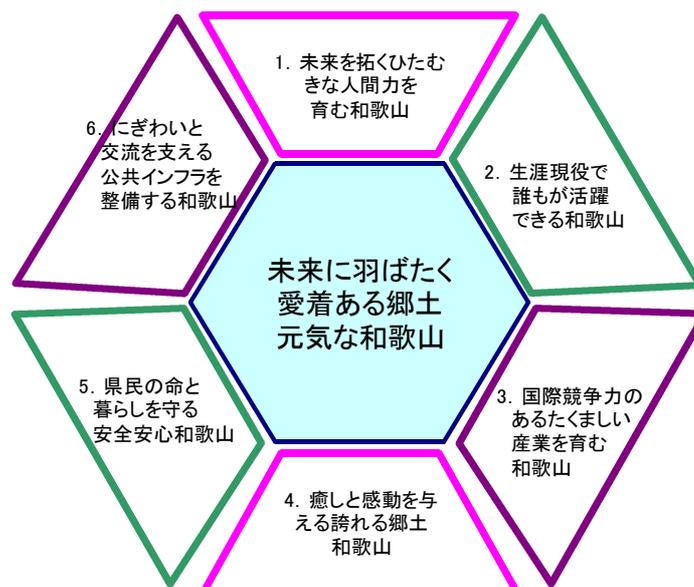
『未来に羽ばたく愛着ある郷土 元気な和歌山』

と表現し、本計画がめざす将来像としました。

『未来に羽ばたく愛着ある郷土 元気な和歌山』では、

- 和歌山県民は、郷土和歌山に深い愛着を持ち、元気にいきいきと暮らしています。
- 温暖な気候や豊かな自然、さらには癒しの力・安らぎの空間が住む人に満足感を与え、安全で安心できる和歌山で暮らしています。
- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をはじめとする和歌山の優れた魅力が世界に向けて発信され、国内外から多くの人々が和歌山を訪れ、その素晴らしさを体感しています。
- 県民や県内産業は、古くから受け継がれてきた進取の気性を発揮して、これまで以上に多くの人々を和歌山に引きつけるとともに、世界を視野に入れて活躍しています。

『未来に羽ばたく愛着ある郷土 元気な和歌山』は、和歌山県の将来像の全体像を表現したものであり、次の6つの分野の将来像により構成されます。



計画推進による達成数値

- ・平成29年度人口推計92.8万人を、政策効果によって97.5万人まで押し上げる。
- ・県内総生産平成17年度3.56兆円を平成29年度4.65兆円に。（伸び率2.23%/年）
- 一人当たり県民所得平成17年度271万円を平成29年度400万円に。（伸び率3.30%/年）

和歌山県ガイドブックがウェブ版になりました！

和歌山県の魅力を幅広く紹介する和歌山県ガイドブックがウェブ版になりました。県のホームページ「和歌山県情報館」*トップページからご覧いただけます。

*「和歌山県情報館」：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

◆おもな内容

- ・必見！世界が認める珠玉の魅力
「紀伊山地の霊場と参詣道」や「串本沿岸海域」を紹介
- ・味・モノ 和歌山
和歌山の味覚や伝統工芸品などをマップで紹介
- ・あの町 この村 市町村
個性豊かな県内30市町村を紹介
- ・イラストマップ和歌山
たくさんのイラストを盛り込んだ和歌山マップ
- ・紀州人物往来
様々な分野で活躍した和歌山県ゆかりの人々を紹介
- ・まつりだ和歌山
四季を彩る祭の数々を写真とカレンダーで紹介
- ・集めてみました日本一
おなじみの梅・みかん・柿はもちろん、意外と知られていない日本一を紹介

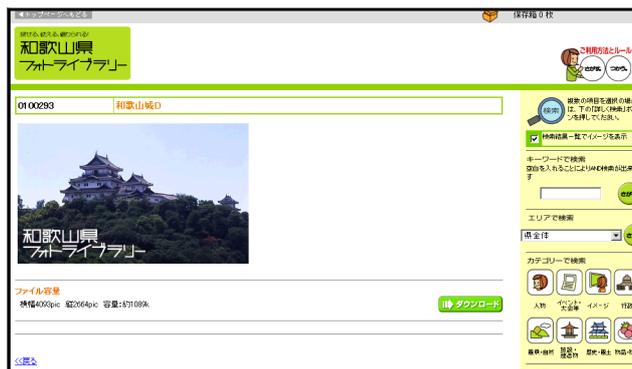


「和歌山県フォトライブラリー」の利用が一層便利になりました！

和歌山県の観光・風景・物産・施設など約2,500枚の写真をホームページからダウンロードしてご利用いただけるようになりました。是非ご活用ください。

◆ホームページ名 「和歌山県フォトライブラリー」

県のホームページ「和歌山県情報館」*トップページからもご覧いただけます。



平成20年度新政策と新しい行財政改革

20年度予算がいよいよスタートします。編成作業は大変でしたが、なかなかいいものが出来たと思います。

私は就任以来、県庁に「新政策の検討」という制度を導入しました。どういうものかという、4月から1年をかけて次の年度に何を実現しようかということを考えようという作業です。この検討では、まず現在の政策の反省や県が抱える課題の検討から始めます。そしてこれらの克服のため、予算に限らず条例、県民運動などあらゆることを検討します。そして一番よいタイミングで、政府への要望、予算化などしていくのです。去年は、新長期総合計画の検討と並行して進めたので、県庁は燃えました。この結果、今年は20項目に及ぶ新政策の柱が立ち、何と新規56本もの新政策予算が出来ました。皆、何せ1年かけてじっくり温めたものばかりですから、近來にない立派な政策ばかり。県庁の総力を挙げた作品です。

ところが一方、今年行財政改革をもう一段深化させなければならない年でもありました。去年の9月に発表しましたように、県財政は21年度には基金（県の貯金）を食いつぶし、破綻してしまうところがありました。木村県政の時に県の職員を10%も減らす行財政改革をしたにもかかわらずです。いい政策はいっぱい上がってきたのに、一方では大なたをふるってそれを切らなければなりません。はっきり言って塗炭の苦しみでした。

しかし、なんとか工夫して、基金を食いつぶさなくてもすみそうな新しい行財政改革プランも出来、それを満足する新長期総合計画の初年度である20年度の予算が、多くの夢の新政策に彩られてスタートします。県民の皆さん、大いに期待してください。

和歌山県知事 仁坂 吉伸

*このメッセージは、県広報紙「県民の友」（4月号）に掲載したものです。

～編集後記～

「和歌山だより」の創刊号はいかがだったでしょうか。今後、月1回程度の発行を予定しておりますが、皆様方に「和歌山だより」の届くのが待ち遠しく思っていたいただけるような、そんな内容の充実したものにグレードアップを図っていきたいとスタッフ一同張り切っておりますので、ご愛読のほどよろしくお願いします。

追伸

皆様方のご意見やご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。

和歌山県秘書課長 鈴木

(連絡先)

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

和歌山県 秘書課

TEL 073-441-2022

FAX 073-422-4032

E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

